

# 図書館だより

北海学園大学附属図書館報 第31巻第4号(通巻192号) 2010.1.19

vol. 31

NO. 4

Bulletin of the Hokkai-Gakuen University Library

五十嵐祐

## 2 情報化社会における 図書館と学生生活

手塚 薫 内山敏和

## 3 私が薦めるこの1冊

イチオシ!

## 4 データベース紹介

## 5 2009年 図書館利用ガイダンス アンケート結果速報

アルバイトーク

## 8 お知らせ 編集後記

# 情報化社会における 図書館と学生生活

文= 五十嵐 祐

(いがらし たすく／経営学部講師)

「図書館だより」の執筆依頼を受けた時、自分の学生時代のことを思い出した。当時はインターネットもまだそれほど普及しておらず、レポートや卒業論文の作成時には、論文や統計などの一次資料を調べるために、図書館に足繁く通ったものである。ただ、お目当ての資料を調べればそれで終わりということはありませんでした。時間だけはあり余っていたので、ついでの寄り道として課題とは関係のないアーカイブを眺めることに没頭し、肝心の資料調査がおろそかになったことも一度や二度ではない。とはいえ、レポートの提出に遅れたり、とんでもない評価を受けたりした記憶はないので、それなりにうまく時間を使っていたようである。

私が好きだったのは、書庫で新聞の縮刷版や雑誌のバックナンバーを眺めることであった。歴史に残るような大事件が当時どのように報道されたのか、また人々はどのように暮らしていたのか、その空気感を味わうことで、タイムスリップしたような気分になれたのである。特に、自分の生まれる前の世界の様子を知りたいと思い、戦中・戦後の混乱、高度経済成長期の勢いなどを記録した報道アーカイブに触れ、時代の息吹を感じとったつもりになっていた。もちろん、膨大なアーカイブにすべて目を通すことはできないので、気になる出来事があればその都度調べる、というようなやり方ではあったが、自分なりの視点で近現代の歴史を考える習慣が身についたのは、このときの経験が生きていると思う。

歴史や経済の大局的な流れを追うだけではなく、人々の生活や文化に関するちょっとしたコラムや広告を見るのもとても面白かった。文化欄では「計算尺検定」のニュースが大きく取り上げられていたり、芸能欄では名前も知らない俳優が大々的に特集されていたりなど、技術や流行の移り変わりの早さを改めて実感させられることが多々あった。時代の

流れによってフィルターにかけられたこれらの情報は、今日、そしておそらく今後も、日の目を見ることはないであろう。しかし、その当時、これらの情報には社会的な価値があり、読者がいたのである。この当たり前ともいえることに気づかされるとともに、情報とは社会において消費されるものである、という事実を改めて実感した。

さて、現代は高度情報化社会であり、多くの情報が世の中にあふれている。インターネットの普及によって私たちの生活は大きく変化し、いつでもどこでも情報のやり取りを行うことが可能になった。新聞を読む代わりに、ヤフーなどのポータルサイトや、新聞社のニュースサイトに掲載される記事で間に合わせる人々も増えた。また、掲示板やブログなどでの個人の情報発信も活発になっている。このような利便性の高い情報環境に囲まれている今日の大学生は、わざわざ図書館で手間ひまかけて情報を集めようという気にはならないかもしれない。最近では、レポート課題を出しても、ブログやウィキペディアの記事をうのみにし、丸写しして提出する学生もいる。手間をかけて情報を調べ、その意味を考えることは、スポーツのトレーニングと同じで、「五感」を活用して知識や考え方を体得することにつながる。こうした学生は、せっかくのトレーニングの機会を自ら放棄しているわけで、残念なことである。

世の中の流れに沿って、図書館の情報もしっかりと電子化されている。国立情報学研究所の論文データベースや、新聞社の電子アーカイブにアクセスして、多くの情報を簡単に手に入れることができる。学生時代には、手軽に手に入る情報だけで世界をとらえるのではなく、少しだけでも手間をかけて、価値ある情報に接し、見聞を広めてもらいたいと思う。

私が薦める  
この1冊

奥田英朗  
『無理』  
(文藝春秋、2009年)

「読んで楽しかった！」と思える本に出会う機会は少ない。インターネットに膨大な情報が溢れ、テレビ、映画、音楽、携帯端末など様々なエンターテインメントが乱立し、落ち着いて本を読む習慣が片隅に追いやられているせいか、漠然と最近の若者は読書をしないと思っていた。ところがゼミで大学生を見ているうちに、意外にも小説を好む学生が少なくないことに気がついた。面白かった作品の感想を学生と話し合うことも決して夢ではない。だから評価の定まった古典ではなく、手軽に読める最新小説をとりあげてみたい。

舞台は合併で誕生した現代の日本のどこにでもあるような、個性のない地方都市「ゆめの」。5人の登場人物が格差社会の中で懸命に生きながらもどこかで歯車が狂っていき、破滅的なラストに向かう。作中人物の体験はまた、現代の日本が向かっている引き返せない終着駅を暗示している。新聞の社説を読むよりもっと鋭く日本の現状をあぶり出してくれる。立ち直りのきっかけをえた

文＝手塚 薫

(てづか かおる／人文学部准教授)

直後にシニカルな現実遭遇する場面など、ユーモラスでこそあれ悲壮感さはほど漂わない。

混迷する現代社会を反映してか、あり得ないような珍妙な事件がちまたに充ちている昨今、まだ誰にも経験されていないような虚構の型がころがっているはずもなく、もはや小説の意義は失われたともいえる。しかし明確な理由が見えぬまま各地で繰り広げられる断片化された体験を組み込んだ「物語」を再編し、現代が抱えている根深さを読者に考えさせることが今の小説の魅力でもある。手軽に読み進むことができるが、奥行きを感じさせ、深い読後感を残してくれる小説が好きだ。

『無理』に戻ると、格差社会や疲弊する地方がテーマとなっている。それぞれの夢を胸に抱いていたはずの5人は、現代の日本のゆがみを一身に集めてこのままするずると底辺に埋もれてしまうかのようだ。それでも頁を閉じるとき、猛烈な負の連鎖をきつと浮上のパネに変えてくれる予感がした。

私が薦める  
この1冊

内田 貴  
『契約の再生』  
(弘文堂、1990年)

本書の著者である内田貴先生は、前東京大学教授で、現在は法務省参与であり、債権法改正作業に中心的存在として関わっています。本書は、その内田先生の契約理論が提示されたもので、その関係的契約理論は、従来の古典的な契約理論に根本的な再検討を迫っています。本書には『契約の時代』(岩波書店、2000年)という続編があります。

私の研究室にある同書は、学生時代に買ったもので、カバーもヨレヨレ、中身も傍線が引いてあり、メモが書いてある「草臥れた」本になっています。これは、学生の頃、講義の合間に何度か読み返していたからです。今思えば、どれだけ理解できたか、どれだけ自分の身につ

文＝内山敏和

(うちやま としかず／法学部講師)

いたのか、疑わしいものです。ただ、教科書や講義の表面には出てこない新しく、且つ挑戦的な議論に対して、自分なりにぶつかっていったのはひとつの思い出です。

ところで、本書を推薦するのは、私がその理論に与しているからというわけでもなく(実は当初から何となく共感できないところがあるのですが…)、ましてや学生にとって必読だと考えているからでもありません。ただ、学生向きの本ばかりでなく、少し背伸びをして新しい議論を吹っ掛けている論文や古典的名著と呼ばれる論文などに挑戦することも良いのではないかと思った次第です。大学という場所で4年間過ごした証に、1冊取り上げて、取り組んでみるのもよいのではないのでしょうか。

# データベース紹介

日本歴史地名大系

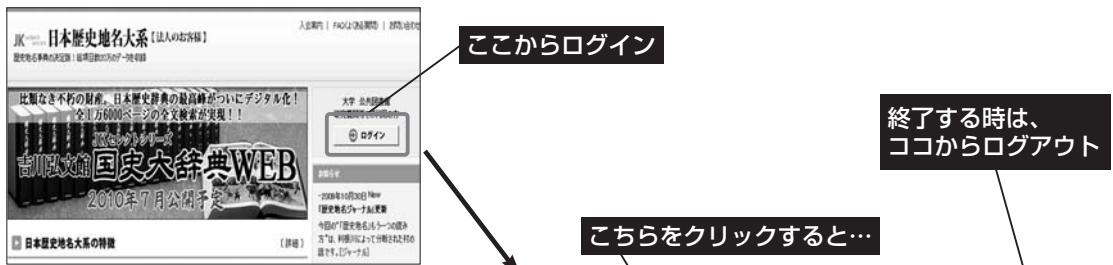
自分が住んでいる日本の歴史・地名のこと、学んでみませんか？

このデータベースは、全国の歴史研究者の協力を得て編纂され、地名研究・地域史研究の全成果を結集した『日本歴史地名大系』の全データを完全データ化。

日本列島47都道府県+京都市の20万におよぶ地名項目はもちろん、文献解題や地図類、行政区画変遷・石高一覧などの貴重な付帯資料もすべてご覧いただけます。

さらにキーワード集計表とキーワード分布図の表示機能、Googleマップとの連携による地図表示などを新たに加え、デジタルデータならではの調査・研究も可能になっています。

## トップページ



ここで検索



## 検索結果



2009  
年度

# 図書館利用ガイドンス

## アンケート結果速報

2009年度も、図書館では様々なガイドンスを行い、たくさんの方に参加していただきました。

ガイドンスの際、参加者の皆さんにアンケートの記入をしていただいたのですが、その集計結果がまとまりました（2009年12月現在）。

※ここに掲載されているアンケート結果は一部のみです。アンケート結果の詳細（2009年度完全版）や今後のガイドンス日程等につきましては、図書館ホームページに随時アップロードしていく予定です。

### ①オリエンテーション

主に新入生を対象に、図書館の基本的な利用方法を説明します。本の探し方から貸出・返却方法、閲覧室の見学なども行います。

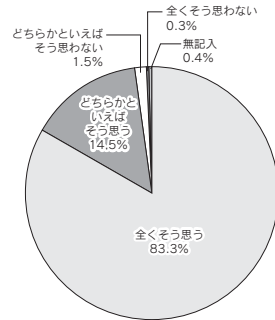
参加者数 999名

実施期間 2009年4月～2009年5月

実施回数 59回

#### ■今回のガイドンスに参加してよかったですか。

	人数 (名)	構成比 (%)
全くそう思う	794	83.3%
どちらかといえばそう思う	138	14.5%
どちらかといえばそう思わない	14	1.5%
全くそう思わない	3	0.3%
無記入	4	0.4%
合計 (※)	953	100%



※参加者数との誤差は未回収分アンケート等による。

#### ■満足できた点・満足できなかった点について、具体的に記入してください。

##### 【満足できた点】

- I. 説明が丁寧・親切・分かりやすかった点。
- II. 今後、図書館を利用してみたいと感じた点。
- III. たくさんの方に驚いた、感動した点（蔵書の豊富さ）。
- IV. 閉架書庫の何階にどんな本があるのか分かった点。書庫を見学できた点。
- V. 図書館の基本的な使い方（貸出・返却、OPAC等）が理解できた点。

**担当講師からのコメント** ご好評いただき、担当者一同、大変嬉しく思っています。励みになります！支持していただいた部分は継続し、より良いガイドンスにしていきます。

##### 【満足できなかった点】

- I. 人数が多いときに、後ろの方にいる参加者に説明が伝わらなかった点（声が小さい、見えなかった）。
- II. 説明時間が長すぎる点。説明時間が足りなかった点（進行の拙さ、説明時間の短さ等）。
- III. （書庫の）エレベーターが狭く、揺れたりして、怖い等の不安を感じた点。館内（閲覧室、書庫）が暑い点。
- IV. ゆっくりと書庫見学できなかった点。
- V. 新しい本がジャンルごとに偏っている。

**担当講師からのコメント** I：改善したいと思います…すみません。 II：難しい問題ですが、より良いバランスになるよう工夫します。

- III：エレベーター、点検では問題ないんですけどね…。館内環境の改善には今後も継続して努めます。
- IV：もう少し時間を取れるよう工夫していきたいと思います。（もしくは、入庫の手続きをすれば、個人でも中に入れますよ）
- V：授業や研究に支障をきたさないよう、図書の変なる充実に努めます。

みなさんの意見を参考に、さらなる充実に図っていききたいと思います。今後ともよろしくお願ひします。

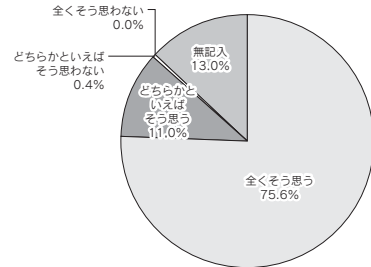
## ②文献検索セミナー

主に2年生以上を対象とし、オンライン・データベース等を駆使しながら、必要な文献を入手するための方法を説明します。

参加者数 365名 (1年生:120名、2年生:129名、3年生:93名、4年生:12名、その他:11名)  
 実施期間 2009年6月~2009年12月 実施回数 24回

### ■今回のガイダンスに参加してよかったですか。

	人数 (名)	構成比 (%)
全くそう思う	214	75.6%
どちらかといえばそう思う	31	11.0%
どちらかといえばそう思わない	1	0.4%
全くそう思わない	0	0.0%
無記入	37	13.0%
合計 (※)	283	100%



※参加者数との誤差は未回収分アンケート等による。

### ■満足できた点・満足できなかった点について、具体的に記入してください。

#### 【満足できた点】

個人的な質問やキーワードに対応してもらえたのが嬉しかったのと、使い方がより体験的にわかりました。／わかりやすかった・理解できた。(親切・丁寧・詳しい・聞きとりやすい・はっきり・スピード) / 図書館に無かったらどうしたらいいのか考えていたので助かりました。／CiNiiやWebcatPlusを初めて知りました。／自分で探しながらのセミナーだったのでわかりやすかった。／パソコンが苦手な人にも、説明が丁寧で分かりやすかった。

**担当講師からのコメント** 参加者の声を励みに、より良いガイダンスにしていきたいです。

#### 【満足できなかった点】

少々駆け足気味だった。／話が長い。要点を絞ってほしい。／検索したときに思っていた検索が出来なかったので残念でした。／時間が経つと忘れそう。

**担当講師からのコメント** 不慣れな進行で、申し訳ありません。さらなるレベルアップを目指します。使っていくうちに慣れて、様々な機能を使いこなせる部分もありますので、今後ともご利用のほどお願いします。

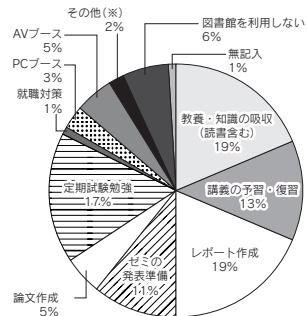
### ■図書館利用ガイダンスに関する意見や要望などがあれば、自由に記入してください。

プリントがあるとやっぱりわかりやすいし、実際あとで使うとき操作を思い出しやすいです。検索することはとてもかんたんそうで、実はけっこう手間がかかったり、時間がかかったり、何を選んだら良いか迷ったりするので、図書館利用ガイダンスはとてもためになります。もっとたくさんの方が参加すればいいのと思います。すごくよい機会を与えてくれてありがとうございます。3年次まで、文献検索セミナーを利用したことがなかったので、もっと早く利用できたら良かったと思った。図書館内に身近な職員さんに来ていただけたら嬉しいです。

**担当講師からのコメント** さらに多くの学生が参加できるよう、よりよい広報を考えていきたいです。学生が満足できるガイダンスに少しでも近づけるよう頑張ります。みなさんの声をもっと聞かせてください。

### ■日頃、どのような目的で図書館を利用しますか。(複数回答可)

	人数 (名)	構成比 (%)
教養・知識の吸収 (読書含む)	84	19%
講義の予習・復習	57	13%
レポート作成	83	19%
ゼミの発表準備	50	11%
論文作成	20	5%
定期試験勉強	75	17%
就職対策	4	1%
PCブース	12	3%
AVブース	22	5%
その他 (※)	8	2%
図書館を利用しない	26	6%
無記入	3	1%
合計 (のべ)	444	100%



※その他: (資格・試験) 勉強 (2名) / 睡眠 (1名) / 新聞 (2名) / 暇なとき (1名) / 読書 (1名) / 具合の悪いとき (1名)

### ③ カスタマイズ・ガイダンス

学部の学習内容に連動させた複数ゼミ用のガイダンスで、図書館の紹介・OPACの利用方法の他に、学部により異なったデータベースを用いて、その使用方法を説明します。(2009年度は経済学部と法学部で実施しました。)

**参加者数** 406名 (1年生：343名、2年生：33名、3年生：28名、4年生：2名)

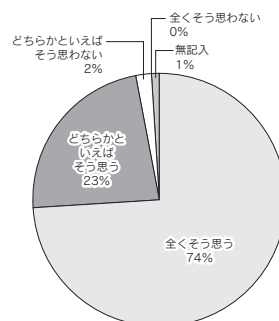
**実施期間** 2009年4月～2009年5月

**実施回数** 14回

#### ■ 今回のガイダンスに参加してよかったですか。

	人数 (名)	構成比 (%)
全くそう思う	245	74%
どちらかといえばそう思う	77	23%
どちらかといえばそう思わない	7	2%
全くそう思わない	1	0%
無記入	3	1%
合計 (※)	333	100%

※参加者数との誤差は未回収分アンケート等による。



#### ■ 満足できた点・満足できなかった点について、具体的に記入してください。

##### 【満足できた点】

わかりやすかった・理解できた。(親切・丁寧・詳しい・聞きとりやすい・はっきり・スピード) / スライドがあつたので、行ったことがなくても図書館内の配置が分かった点。 / 写真がたくさん出てきて面白かった点。 / データベースのことを知れて、使い方も教えてもらえた点。 / パソコンが苦手な人にも、説明が丁寧で分かりやすかった。

**担当講師からのコメント** 大変励みになります。これからもより良いガイダンスになるよう工夫していききたいと思います。

##### 【満足できなかった点】

説明の声と、画面の文字が小さかった点。 / パソコンに慣れてない人には、操作の説明や全体の進行が早すぎる。 / データベースを使う時間ももっと欲しかった。 / 課題をやる時間が足りなかった。

**担当講師からのコメント** ご指摘、ありがとうございます。改善に努めます。

スライドはさらに見やすくなるよう改良したいと思います。

データベースの説明や課題に関しては、どのような配分で行うのが良いか、今後の課題として検討し、より良いガイダンスになるよう努めます。今後ともご利用のほどお願いします。

#### ■ 意見や要望などがあれば、自由に記入してください。

もう少し早い時期にやって欲しかった。

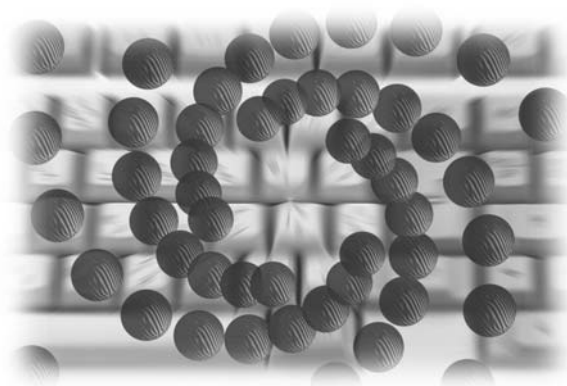
説明が早すぎてついて行けなかった。パソコンが苦手な人もいるのでゆっくりやっても良いと思う。

こういうゼミの中で説明してくれてるのでとても助かります。来年以降も続けて下さい。

4年間利用していく上で、とても参考になった。

**担当講師からのコメント** さらに多くの学生が参加できるように、よりよい広報を考えていきたいと思ひます。

学生が満足できるガイダンスに少しでも近づけるよう頑張ります。みなさんの声をもっと聞かせてください。



# 麗江古城の伝説 不滅の愛を約束する1メートルの光

文＝劉 作 坤

(りゅう さくしん／経営学科研究科)

前号は、中国に北海道観光ブームを巻き起こした大ヒット映画「非誠勿擾」の紹介であった。今回は、恋人同士に人気の旅行スポット「麗江（れいこう）古城」を紹介したい。

1997年、世界遺産に認定された麗江古城は、雲南省の北西部にある。ナシ族によって、元代（1271～1368年）初期に創建され、城壁がない古城として他に例をみない。青黒いつるつるした石畳でできた狭い路地が迷路のように続き、道路沿いには民家や商店が並び、各民家の前を流れる水路には、柳の木が植えられている。数百年前と変わらない風情がそこには今も残っている。

麗江の魅力は、多民族・多国籍・多文化の融合にある。ナシ族は、多様な文化を吸収し、自らの文化と融

合させ、独自の文化を作り出した。東巴（トンバ）文字は、世界に現存する唯一の象形文字である。また、古城の中心「四方街」には、世界各国の飲食店が立ち並び、毎夜遅くまで騒がしく、様々な方言・外国語が飛び交っている。

麗江の伝説を題材としたドラマ「一米阳光」（1メートルの光）が近年、中国で大ヒットした。麗江近辺にある玉龍雪山は1年中雲に覆われ、晴れても雲から日を通すことはない。毎秋、太陽と月が同時に輝く時、山頂で1メートルの光が当たる時間があり、その光を浴びると不変の愛情を築くことができるという。

麗江を紹介する人気本、「丽江的柔软时光」（麗江のゆるやかな時間）、ドラマ「一米阳光」は、中国語を勉強中の方にお勧めである。

## 休館のお知らせ

館内作業のため、下記の日程で図書館（本館、工学部分室）を臨時休館させていただきます。ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力のほどをお願いいたします。

平成22年3月24日(水)～3月26日(金) 9:00～17:00

なお、17:00～22:00までは通常通り開館いたします。

## 編集後記

昨今、インターネットの普及や広告収入の減少等で、雑誌の休刊・廃刊が相次いでおります。そんな折に『週刊誌は死なず』（朝日新書）という本を読みました。新聞やテレビでは伝えられないことを記事にして国民の知る権利に応えようとする使命感や、ジャーナリズムとしての自負を感じることができましたが、同時に近年の雑誌を取り巻

く危機的な状況もあらためて認識しました。

図書館にもそういった「週刊誌」の他にも、多くの雑誌（総合誌・専門誌・娯楽雑誌など）を揃えています。また、書店に行くと、途方もない種類の雑誌に触れることができます。皆さんも是非、お気に入りの雑誌をさがしてみたいがかでしょうか。

北海学園大学附属図書館報 図書館だより 第31巻4号（通巻192号）

本館 〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号 工学部図書室 〒064-0926 札幌市中央区南26条西11丁目1番1号  
TEL (011) 841-1161（本館内線）2273・2274・2275（工学部内線）7813・7814 印刷所：(株) アイワード